

令和5年度 小学校教員向け環境教育研修会 実施報告
「やってみよう！環境学習プログラム」
第4回「いまさら聞けないSDGs～学校の中での推進」（テーマ：SDGs）

□実施日時 令和5年8月9日（水）13時30分～15時30分
□実施方法 Zoomによるオンライン

□実施内容

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局総務部環境政策課から開講挨拶等

2. 講師からの講義・体験

講師：全国小中学校環境教育研究会会長 東京都多摩市立連光寺小学校校長
関口 寿也氏
町田市立小中一貫ゆくのき学園校長 鈴木 元氏
昭島市武蔵野小学校主任教諭 八長 康晴氏

（1）環境学習のポイント ～体験の重要性～

学校教育の中で、SDGsについてどう取り組めばよいのか。SDGsについての基本的な考え方をクリアにして、参加者同士の交流から実践方法のヒントを一緒に考える。

（2）講座

①講義「いまさら聞けないSDGs～学校の中での推進」（関口先生）



7月は史上最も暑い月になる見通し「地球沸騰化が始まった。」

気温上昇で支障をきたす学校教育活動。教室、校庭、プール、体育の中止などで授業ができない、学習意欲の低下、遊びの制限、子供たちもストレスがたまっている。これが日常的な風景となってしまった。

SDGs の概念を表す構造モデルである「SDGs ウェディングケーキモデル」を紹介し、一番下を支える生物圏での3つの課題はSDGs達成に向けて非常に大事な項目であるとした。

環境教育を実践したとき、とりあえず教える、成果が出ないなどの悩みを抱えてしまう。

SDGs を学ぶ学習をしているのでは。

「自分たちも思っている様々な将来への不安などを子供たちに教えなくていいのか」という、教員として人としての使命感につながるのではないか。

温暖化が学校教育活動に与える影響

気温上昇で支障をきたす学校教育活動

- ・教室で・・・ エアコン常時稼働、コロナ禍の喚起
ますます温暖化を招く???, 意欲低下
- ・校庭で・・・ 体育の中止、授業ができない
- ・プールで・・・ 晴れているのにプールができない、プールサイドに水筒
- ・休み時間で・・・ 遊びの制限、ストレス
- ・登下校で・・・ タオル、ネッククーラー、帽子、日傘等の携行指導
落雷の注意、下校待機

そしてSDGs…その根底は何か

スウェーデンのヨハン・ロックストロム博士が考案した
SDGsウェディングケーキモデル

一番大切な部分は?

学校教育が用意しなければならないのは、教育、能力開発、人材育成であり、「環境教育を学ばせる」から、「環境教育で、学ばせる」とすることで、探求型学力の向上（ESD）で持続可能な社会づくりが可能になる。とした。

地域資源を活用して進め、資質・能力・態度を身につけることが郷土愛を育み SDGs の達成へ向けた小さな一歩へつながる。SDGs は題材ではなく目標であり結果である。として、教科指導の模倣ではなく、学びのプロセスを参考にする。つかむ、しらべる、まとめる。という学びのサイクルを繰り返しながら学びを進めている実践事例を紹介した。

ESDの実践に必要なモノ、コト

(4)学び方～学びのスパイラルと発信・行動

- ①学び方を学ばせる(探求学習)
- ②つかむ・調べる・まとめる・発信の学習過程サイクル(スパイラル)の繰り返し
- ③発信・行動による自己実現と将来にわたるモチベーション

ESDの実践に必要なモノ、コト

事例1) 東京都小学校 未来にやさしいエネルギー（気候変動）6年生

外部の協力（企業、活動する高校生（FFF））を借りながら学ぶ。イルミネーションを点すなどの発信・行動を行った。

事例2) 北海道小学校 羅臼学（地域の学び）

地元のことについて学年ごとに学んでいる。地域の学びで郷土愛が生まれ SDGs の達成へ近づく。学校全体で活動を繰り返している。

ESD実践事例 (1)東京都小学校「未来にやさしいエネルギー」

活動内容	学びのサイクル	協力者等
1 気候変動について知ろう(温暖化の現状を知る)	つかむ	地球温暖化C Cの講義
2 気候変動とエネルギー(エネルギーと気候変動の関係を知る)	つかむ	
3 様々な発電方法のメリット・デメリット(現在行われている発電について調べ、メリット・デメリットをまとめる)	つかむ、調べ、まとめる	地域電力会社の活躍、まとめる

ESD実践事例 (2)北海道小学校「羅臼学」

各学年で学びのスパイラルイメージを深める授業実践

【第1, 2学年】
～地域の自然や仕事について体験活動を通して学ぶ～
・鮭の生態や稚魚の放流の学習、稚魚放流（漁協、地域住民）
・鮭フレックづくり

【第3, 4学年】
～地域の自然や産業について課題設定、探検活動～
・羅臼生き物図鑑（知床財団）
・クマ学習～クマとの共生、罠性、危機回避方法（知床財団）
・羅臼川探検～海岸物質源と山・川の関係、水質調査比較
・ホッケ調理（漁協）

【第5, 6年生】
～地域の郷土産業～
・羅臼昆布について総合的に学ぶ～SDGs14との関わり(漁協)
・「羅臼に残したいもの」
～温泉清掃、地域賞状発給～パンフレット制作配布～外国語版の作成

学校全体での学びのスパイラル
重層的・複合的な学び

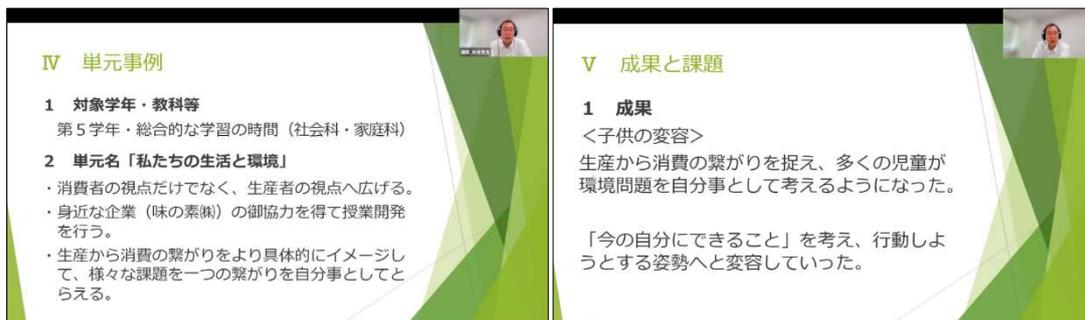
②講義「持続可能な社会づくりのための環境教育の推進」

～消費者視点から生産者視点への環境教育によって育む学力と環境保全意欲～
(町田市立小中一貫ゆくのき学園 校長 鈴木氏)



社会的背景から消費者の視点、身近な問題、生産者視点を交えた環境教育を行う必要があるとし、全国小中学校環境教育研究会で作成した「新しい環境教育」で示す3つの能力・態度に基づいた指導計画・単元・授業プランを紹介。

研究経過では、学校現場でのESD推進状況の確認、取り組み可能な課題の検討、昨年度の研究の検証、消費者視点から生産者視点へ広げるための教材、単元開発、授業検証を行い、単元事例として企業とともに開発した授業動画を視聴した。



授業後のアンケートにて、

- ・今まで人間が自然を壊してきたからこれからも自然を残せるのか心配です。
- ・色々な企業でSDGsの取り組みをしているということに安心した。

とあり、子供たちの意識変容、環境問題を自分事として考えるようになったことを、成果として紹介。

教員にとっても、企業がSDGs達成に向けてどのような工夫と努力をしているかを知るよい機会となり、指導の幅の広がりをもつことができた、とする一方、企業が実施する授業回数限界、教員主導で実施する工夫などを課題とした。

③グループディスカッション

班に分かれて授業として取り組む際の課題等についてディスカッション。それぞれの班に講師が入り意見交換を行った。



(質疑応答及び受講者同士の意見発表)

- ・実践が聞いてみたいです。オンラインはとても参加しやすいので継続してほしいと思います。
- ・SDGs を取り入れた 1 単位時間の授業作成が、オンラインまたは対面でできたらと思います。夏季研修であれば、2 学期以降の授業実践に活かしていけるとと思います。

◎事務連絡、アンケート記入等（事務局） アンケート